

平成29年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立椿小学校						
評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と目標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点	
確かな学力の定着と指導の充実	授業改善 授業研究	全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの分析と活用 ①全職員による自己採点の実施と分析結果の共通理解 校内研修会での共有基礎基本の定着の取組 ②家庭学習の取組 学年ごとの目標学習時間の達成80% 授業改善と指導力の向上 ③授業研究会の実施による指導力の向上 全教員が授業研究実施 教員一人年間1回	① 全員の答案に対し、自校採点を実施した。あわせて、9月に届いた正式な採点結果からみえる本校児童の課題をつかみ、鈴峰中校区の小学校と連携しながら授業改善に取り組んだ。 ② 第6回調査の結果72.0% ③ 全教員が、授業研究一人1回（講師招聘6回）	国語、算数ともに、全国平均正答率を上回り、全体的に見て目標値をクリアできたと言える。このことは、平素から活用力を鍛える問題に意図的に出会わせてきた成果であると捉えている。しかしながら、国語、算数どの教科においても記述式で回答を求められる問題に関しては、記述に不備があり、正答までたどり着けない児童が多かった。 鈴峰中校区の研修担当者が、各校の課題を共有し、校区が連携して学力向上に取り組んでいる。 家庭学習については、宿題への取組は概ね良好であるが、自主学習の取組に課題がある。 授業研究においては、教科授業3回、人權授業2回、外国語授業1回の授業研究会を実施し、授業力の向上に向け研修を行った。	各教科の授業において「書く」活動を多く取り入れ、記述式の問題に抵抗なく取り組めるような工夫を行っている。また、県教育委員会作成のワークシートを効果的に活用し、さらに活用力を高める指導を充実させていく。 家庭での自主学習の方法を具体的に示す、優れた事例を児童に紹介する等、児童が積極的に取り組みやすい工夫を行う。 授業研究会の成果と課題が教員一人ひとりに意識され、自らの授業改善に生かすことができる研修の工夫をさらに行う。	
	コミュニケーション能力の育成	④EEタイムや国際交流行事に対する児童の満足度90%	④ 児童アンケート「EEタイムは好き」85.4% 修学旅行・5年社会見学において、外国人スタッフや旅行者へのインタビュー活動を実施。椿ワールド実施。	鈴峰中校区の小学校が、新学習指導要領の先行実施として外国語の授業時間数が増加した（中学年…週1時間、高学年…週2時間の外国語授業を実施）。ALTや、鈴峰中の英語教諭、合川小の教諭等、様々な指導者とEEタイムで学ぶ機会がある。 外国人に対するインタビュー場面でも、積極的にコミュニケーションする姿が見られる。楽しく英語を学ぶ取組の成果であると捉えている。	児童一人ひとりが認められていくことで「やる気」が高まり、そのことが自主学習の充実につながっていくのではないかと。キャリア教育が大変充実しており、いろいろな職業の人々との出会い・ふれあえることは、児童の人間形成に大いに寄与していると思う。また、本物に触れ、体験（経験）することは、児童の生涯にわたって忘れることのできない貴重な体験となっている。子どもの発達段階に合わせたテーマを選び、効果的に講師を招いての取組を行っている状況がよくうかがえる。 次年度に向け、子どもが体験活動を通じて将来の夢や展望を持てるような取組を多岐にわたり、継続して進めてほしい。	次年度も引き続き、先行実施校としての取組を継続していく。特に高学年では、アルファベットの読み書き等、従来中学校で学習してきた内容の習得が求められてくる。そんな中、児童が楽しく英語に接することに重点をおき、コミュニケーション力の向上を図っていく。
	キャリア教育の推進	「すずか夢工房」や「ゲストティーチャー」を活用した学びの実施 ⑤各学年 年間2回以上、合計年間20回	⑤ 51回実施	目標回数を大きく上回り、地域のゲストティーチャーや専門家から指導していただくことで、生きた学習の機会となっている。 全学年が積極的にキャリア教育に取り組んだ結果、生き方の学びを深めることができた。また、ゲストティーチャーとのふれあいを通じて豊かな心を育むことができた。		それぞれの活動において、教科との関連性を提示するなど、児童に身につけさせたい力を明確にし、計画的にキャリア教育を推進していく。
	多文化共生教育の推進	わかりやすい授業づくり ⑥JSLバンドスケール判定会議の実施 1回	⑥ 1/15実施	全職員で子どもたちの成長を見ていくことで、子どもの現状や課題に応じた指導を行うことができた。 国際化対応教員（非常勤）のきめ細かな指導により、日本語力だけでなく、学習面でも大きな成果がみられた。		次年度は、外国籍児童の在籍はなくなるが、引き続き、すべての子どもにわかりやすい授業づくりに取り組む。さらに、様々な機会を利用して多文化共生の意識の育成を図っていく。
	特別支援教育の推進	⑦専門的な知見を有する講師による校内研修（ケース会議）の実施 1回	⑦ 特別支援学級をふくめ、個々の児童への支援体制の整備を行った。	鈴峰中校区の全教員が、スクールカウンセラーを講師とした研修会（8月実施）に参加した。具体的な事例をもとに、効果的な対応について検討することができ、その後の指導に生かすことができた。		児童・保護者のニーズを把握しながら、通常学級において個別の支援を必要とする児童へのきめ細かな対応を図っていく。
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の定着	⑧自己点検活動 年間6回実施（鈴峰中学校区「家庭学習の取組」年間3回・「みえの学力向上県民運動チェックシート」年間3回）	⑧ 6回実施 「自分で決めた時刻に起きる」79.6% 「朝ごはんを食べる」97.5% 「設定時刻に寝る」66.6%	特に、就寝時刻が遅くなりがちな児童が、中学年以上で多い傾向がある。 朝食は、ほとんどの児童が毎朝食べているが、休日に食べない児童が数人いる。 家庭学習の時間の確保も含めた生活習慣の定着が引き続き課題である。	教職員が児童に対して積極的に外遊びなど、体を動かす活動を推奨していく等の取組を工夫し、引き続き児童の体力の向上に努めてほしい。	規則正しい生活、家庭学習の習慣化、家庭での読書習慣の定着など、児童自らが意識して身につけていくことができるよう、引き続き、家庭と連携しながら自己点検活動に取り組んでいく。
	体力・運動能力の向上	⑨新体力テスト・駆け足運動・マラソン大会の実施	⑨ 5/9 新体力テスト実施 5年生の体力合計点平均 男子 55.33（国の目標値55） 女子 52.50（国の目標値56） 2/ 5～13 駆け足週間実施 2/14 マラソン大会実施	全国調査の対象となっている5年生については、男子が国の目標値を上回っているが、女子は目標値に達しなかった。 特に、本校の特徴として、持久力や上体起こしは優れているが、柔軟性や投擲力に課題がみられる。 2月実施のマラソン大会に向け、業間駆け足週間を設定して体力づくりに取り組んだ。このことは、児童の体力・運動能力の向上に大きく貢献できているものと考えられる。	特に、女子の体力向上につながるような活動を広く取り入れていただきたい。	柔軟性や投擲力の向上に向け、体育科の授業だけでなく、学級レクリエーションや日常的な遊び等において、つけたい力を明確にした取組を進めていく。
豊かな心の育成	つながりを育てる学級づくり ⑩学校生活に対する児童の満足度「学校は楽しい」90% あいさつ運動の推進 ⑪「あいさつ運動」への児童の参加年間11回	⑩ 児童アンケート「学校は楽しい」84.6% ⑪ 11回実施	学校生活アンケートの結果を受け、全教職員で、今後の教育活動の改善について討議する機会を設定した。児童の学校生活への満足度がさらに向上するよう、具体的な取組を抽出することができた。 あいさつに関しては、児童アンケートでは87.7%、保護者アンケートでは85.4%が肯定的な回答であった。しかしながら、積極的なあいさつができる児童が固定的であることも実態として感じている。あらゆる場面を通じて、全ての児童が笑顔で元気なあいさつができることが課題である。	「学校は楽しい」と回答している児童の率は高い。さらなる向上に向け、全教職員で教育改善について討議する機会を設け、実践したことは高く評価できる。引き続き児童一人ひとりが達成感をもつことができる教育活動を推進して欲しい。 不満足群の解消に向けた実効性のある取組を期待する。	全ての児童が、学校生活を楽しいと実感できるものにするため、学級集団作りに重点を置いて、児童の日常的な状態を担当がきめ細かく把握するとともに、課題を全教職員が共有できるよう、校内体制を整えていく。 決まった場面や相手だけでなく、あらゆる場面であいさつが積極的にできるよう、児童会と連携した取組を進める。	
安全安心な学校づくり	⑫地区の危険箇所及び子どもを守る家の確認 年1回	⑫ 夏季休業中に宿題として実施	PTAとの連携のもと、夏休みの宿題として地区の危険箇所と子どもを守る家の確認を親子で実施した。自然災害への対応についてもあわせて確認することができた。 また、新名神高速道路建設工事やその関連の工事業者との連絡を密にしている。 学校施設の安全点検を毎月実施し、異常や修繕必要箇所があればその都度迅速に対応している。	日頃の登校の様子をみていると、きちんと整列できており、とてもいい姿である。またそれにあわせてあいさつが出来る児童も多く、このことは校区のいい伝統である。	安全確保については、実践とその検証を定期的に行っていく。 また、見守り隊のさらなる充実に向け、地域に対する依頼を継続していく。 学校施設については、児童の安全を第一に考え、修繕の必要な箇所については教育委員会と連携しながら早急な対応を行う。	
開かれた学校づくり	情報提供の充実 ⑬学校だより年間22号発行 ⑭学校ホームページを年50回更新	⑬ 31号発行 ⑭ 76回更新	学校だよりを通して、学校の教育活動を保護者や地域に定期的に発信することができた。 学校ホームページの「トピックス」を随時更新し、画像とともに活動の紹介を行っている。 学校の情報発信についての保護者アンケートの結果、92.7%の肯定的評価を得られた。	学校だよりに児童の好ましい行動の紹介を掲載することは、他の児童への啓発にもつながり、今後も継続していきたい。また、新しい教育情勢等について家庭・地域に伝えるコラムの創設も、大変参考になるので期待している。	学校だよりの記事において、国や県・市の教育に関する情報を掲載する等、さらに内容の充実を図っていく。 公民館やまちづくり協議会と連携した教育活動を継続して展開していく。 年6回の学校運営協議会で広く意見をいただき、教育活動の改善を図っていく。	